

将来を見据えた住宅設計の必要性

奈良県河合町立河合第一中学校

一年 南岡 正志

今僕は、母と弟二人との四人で借家に住んでいます。部屋は少なく、家族四人、一つの部屋で寝起きしています。勉強机も、リビングに三人分を並べ、いろんな音が飛び交う中、勉強しています。僕も四月から中学生になったので、自分の部屋が欲しいと思っています。そこで今回、「快適な住まい」を読んで、自分はどんな家に住みたいかを考えてみました。

僕は、二階建ての子ども部屋のある家が欲しいです。そして、夏は涼しく、冬は暖かい家がいいと思いました。夏に、冷房をあまり使用せずに過ごすために、西の方角には壁を作り、西日を避け、また、通気性を考え、南北に窓を作る必要があると考えました。また、僕の家近所には、高速道路が通っており、騒音があるので、窓は防音性の高い二重サッシがいいと思いました。冬には結露防止にもなるし、断熱性に優れ、冷暖房効率が上がりと、環境にも優しい住まいになると考えたからです。また、防犯面でも侵入しにくい住まいになり、より安全に過ごせると思います。

次に僕は、祖母も一緒に暮らしたいと思っています。将来、足腰が弱ってくるであろう祖母が過ごしやすいよう、祖母の部屋は一階に設け、たとえ車椅子での生活になったとしても、快適に過ごせるように、玄関から段差のないバリアフリーにし、手すりを設け、また、みんなと過ごすリビングや、生活に欠かせないトイレ、浴室に容易に移動できるようにしたいです。

また、今は車を運転している祖母も、いつかは車のない生活になると思います。そうなった時、一人でも病院や買い物に行きやすいよう、自立した生活が送れるように、傾斜が少なくかつ駅の近くに家を建てたいです。

人は誰しも、老いていきます。今回、快適な住まいについて考え、先を見据えた居住環境、設備を考えていく必要があると思いました。